HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	武漢・重慶出張報告
Author(s)	石上, 千哉子
Citation	知的財産法政策学研究, 6, 252-253
Issue Date	2005-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43438
Type	other
File Information	6_252-253.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

武漢・重慶出張報告

石上　千哉子
（北海道大学大学院法学研究科 COE 研究員）

2004年11月11日から17日まで田村善之教授が中国武漢及び重慶に出張され、趙研究員をはじめとする4名の COE 研究員が同行した。

（1） 武漢

北海道大学と協定を締結した中南財経政法大学を訪問し、呉校長らと打ち合わせを行った。打ち合わせの内容は、協定に基づいて決定された研究員の派遣やその研究内容についての確認、中南大が来年発行する雑誌に北大が協力すること等である。また、滞在中、北海道大学に派遣されることが決定している李揚副教授の授業を見学した。学生たちが真剣に授業に聞き入っている姿が印象的であった。

（2） 重慶

同年11月15日に中国国家知識産権局（日本の特許庁に相当）主催のシンポジウム「知识产权战略与企业竞争力国际研讨会（International Workshop On Intellectual Property Strategy And Enterprise's Competitive Power）」が開催され、報告者の一人として田村教授が会議に出席された。本会議は、第六回中国重慶高新技術交易会暨第二届中国国际军转民科技博览会（The 6th China Chongqing Hi-tech fair & The 2nd China InternationalExpo for Civilian Application of Military Technology）の一環として行われたものである。田村教授は「日本的知識産権動向」というテーマで報告された。田村教授以外の報告者には、张勤中国国家知識産権局副局長、Keith E. Witek 弁護士（アメリカ AMD アシスタントジェネラルカウンセル）らがおり、中国、日本、アメリカという国際的視野から知識財産権全般の問題点及び今後の展望等が報告され、議論された。また、会議の合間には、重慶晨報（Chongqing Morning Post）らマスコミに対する記者会見が行われた。

今回の国際会議には知識産権局の楊哲女史らさまざまな関係者が尽力されていたが、中にはボランティアとして会議の運営に協力する大学生もいた。北京、上海のような沿海部の大都市だけではなく、重慶のような中国西方地域でもこうした国際会議が開催されることにより、知識財産権の重要性が中国全土で認識されることが期待される。

なお、田村教授は会議以外に、重慶工商大学で大学生を相手に「知識産権法的－市場指向型・機能性的・自由統御型知識財産法的想法」というテーマで報告された。この報告は、今年の4月から半年間北大に留学されていた楊和義教授の要請によるものである。報告の後、学生から次々に質問が出されたが、同行した趙、劉2名の COE 研究員の通訳を通じて一つ一つ時間の許す限り丁寧に回答された。

最後に、我々一行をとても親切にもてなしてくれた武漢の李揚副教授、重慶の楊和義教授ら関係者に感謝の意を申し上げたい。